



# しんまち 歳時記

しんまちはり・灸・整骨院

〒024-0094 北上市本通り1-7-9ピラージュ・パオ1FA

TEL 0197-63-3770

しんまちリハビリデイサービス

〒024-0053 北上市大堤西2-6-5

TEL 0197-72-7124



第135号 2019年3月1日 発行

ホームページ <http://shinhari.com> フェイスブック <https://www.facebook.com/shinhari.expert/>

今月もしんまち歳時記を読んで頂きありがとうございます。

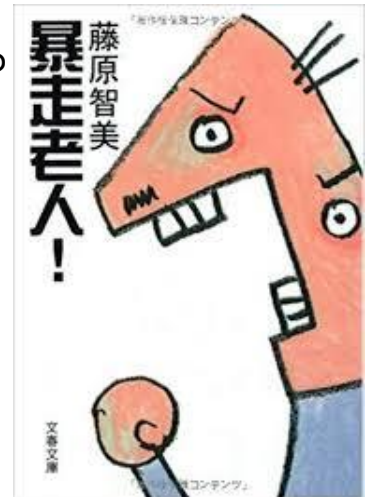
近年、「キレる若者」が話題になっていましたが、実は、接客業の現場で起こっている事の一つに、「中高年の客がキレやすく、対応に困る」という問題があるそうです。店員さんを理不尽に怒鳴りつけたり、レジに並ぶ客同士でトラブルになるといった例があるそうです。

老人と社会のつながりについての著書を持つ、作家の藤原智美氏は「会社を退社するなどして、人との会話が少なくなると、自分の要望を伝えたり、相手の意図をくみ取ったりするコミュニケーション能力が低下する。イライラしてちょっとしたことで爆発してしまう。」

と、原因の一端を指摘します。

日頃からのコミュニケーション(会話)、相手の話をよく聞き、思いをシェア(共有)する。

年齢にかかわらず、これを積み重ねる事が重要だと改めて思った次第です。



代表 浅川 進

## 今月の「武将の教え」

「大義をおもふものは、たとへ首をはねらるる期までも  
命を惜しむは、何卒本意を達せんとおもふ」(石田三成)

自分が貫くべき大義(正義、目的)があるならば、命が尽きるその時まで命を大切にすべきという意味です。

処刑の前に喉の渴きを訴えた三成は、警固の者が勧めた柿を「痰の毒だ。」と断ったそうです。

「これから首をはねられる者が今更、痰を気にしてどうする。」と嘲笑されたのに対して、この返答をしました。

三成の大義とは豊臣家を守る事です。

首をはねられるその時まで、命を繋ぎ、最後まで豊臣秀頼を守ることを諦めませんでした。

人の心は折れやすいものです。

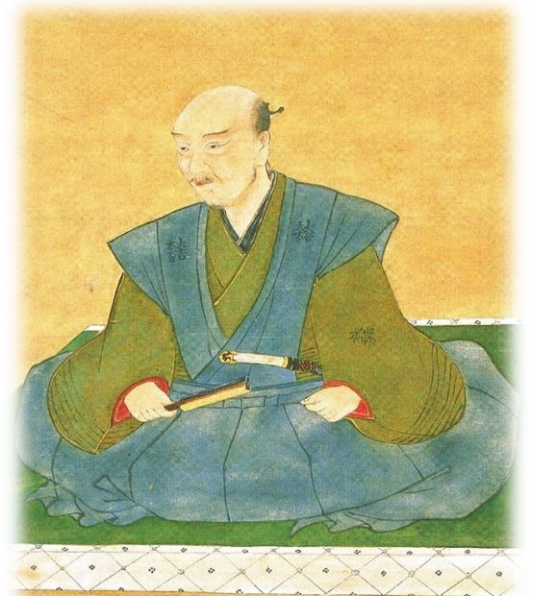
「最後まで諦めなかった。」

この言葉を言える人はなかなかいないと思います。

窮地に陥った人が一生懸命に考えるからこそ、何か糸口を見つけることができます。

何があっても諦めないその心が育てば、今まで諦めていたことも成し遂げられるでしょう。

何か困難に陥り、諦めそうなとき、思い出したい三成の教えです。





おに邪魔しますよ  
ド●リアさん



先月2日、北上の優しい鬼たちが市内の児童施設を回る、『遊鬼(ゆき)まつり』が今年も行われました。YEG(北上商工会議所青年部)の一員として優しい鬼のオニイちゃんになりきってきました。

なんと今年は「ベストメイク賞」をいただいてしまいました！！とあるマンガのキャラクターがモデルなのですが、なんのキャラクターかわかりますか...？

くらし  
花鳥風月

## 上巳の節句とひなまつり

3月3日はひなまつり。女の子の健やかな成長を願ってひな人形を飾ったり、ひなあられを食べたりしますが、当初は女の子だけに限った行事ではなかったようです。

というのも、ひなまつりの源流は古代中国で行われていた「上巳節」という穢れを祓う風習からきているからです。「旧暦三月の初めの巳の日」の頃は、身体に邪気が入りやすいため、その邪気を水辺で祓っていたそうです。現在でも東洋医学では体調不良の原因として「外邪(身体の外からくる邪気)に侵される」という考え方をするので、やはり季節の変わり目は昔から体調を崩しやすいものなのです。

この「上巳節」が日本に伝わると、紙で作った人形(ひとがた)を川や海に流すことで厄を祓う「上巳の節句」になります。

平安時代には貴族の女兒がおままごとに使った人形「雛(ひいな)」と結びついて、「流しひな」という風習になりました。ちなみに、「雛(ひな)」というのは「小さくした・可愛い」などの意味があるそうです。

この後、ひなを作る技術が上がっていったことで、ひなは流すものではなく、飾るものへと変化していったようです。飾るためのひな人形になっても、「代わりに厄を引き受ける」という本来の意味は変わらず、近代まで嫁入り道具の一つとして持たせていたそうです。

近年では、女の子が産まれた時にひな人形を贈ることが多いと思います。「3日を過ぎても仕舞わないと、お嫁にいき遅れる」という通説もあり、「代わりに厄を引き受ける」という意味よりも、大切に扱う「お守り」の意味合いが強くなっているのかもしれない。

